

直言 提言

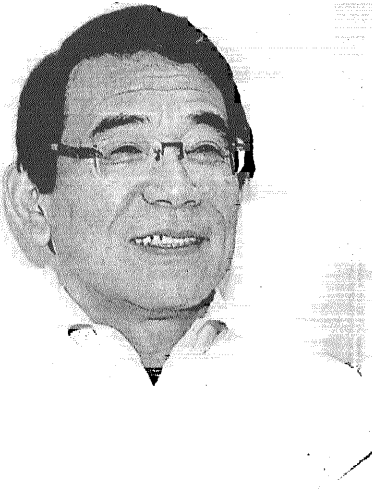
4

■有権者の意識

小泉純一郎首相による「刺客」を送り込む手法は、今までに全くなかったもので、自民党にとって、吉と

出るか、凶と出るか注目すべき点の一つではある。地域間の人口の流動化が激しくなり、社会の均質化が進み、以前より有権者が地域的な利害にとらわれる時代ではなくなってきた。住民の選挙区意識も薄れつつあると思う。小泉首相はそんな

渡辺 利夫さん (山梨総研理事長)



争点の絞り込み評価 国益考えた外交必要

な時代背景をつかんでい。選挙の争点を郵政相の主張は正論だと思う。民営化に絞り込む手法は見張感に満ちた時期は今までなかったのではないか。

■小泉政権の評価

郵政民営化を構造改革の

突破口と位置付ける小泉首相の主張は正論だと思う。「争点はたくさんあるのに郵政しか議論しないのは変だ」という指摘もあるが、郵政しか議論しないのは変だ」という指摘もあるが、

小泉首相は官邸のパワが強い。選挙の争点を郵政相の主張は正論だと思う。民営化に絞り込む手法は見張感に満ちた時期は今までなかったのではないか。

外交などでは官邸主導の意思決定が目立つ。山積する課題を片づけるために、政治的意図をできるだけ一元化したいという意思が働いているようだ。

■求める政策

少子高齢化が進む中、国民の多くが現在の年金シテムは維持できないと認識している。年金制度をつくらなければならないと認識している。腰の引けた外交は、日本国内での反中感情を増幅する恐れがあり、将来的には日本国内での核武装論の台頭を招くなど、自滅につながる恐れがある。日本も国益を考えた外交が必要だ。

■選挙後の政界

選挙後は、さらに二大政党制の流れが加速するだろう。イデオロギーの対立がなくなり、政治的課題の解決手法をめぐっては「グリーン」が増えていくと思う。郵政民営化や年金改革が既にそうであるように、政治家にはよりテクニカルな議論が求められる。成熟した社会の二大政党制では、イデオロギーはどちらかといえば「程度の違い」にすぎず、論点は専門的になる。より官僚的というか、政策に精通した政治家が論争するスタイルになっていくのではないか。

わたなべ・としおさん 山梨総研理事長。筑波大、東京工大教授などを経て、今年4月から拓殖大学長。甲府市出身。東京都目黒区在住。66歳。

わが国は外交的にも倫理的にも優位な立場に立っている。腰の引けた外交は、日本国内での反中感情を増幅する恐れがあり、将来的には日本国内での核武装論の台頭を招くなど、自滅につながる恐れがある。日本も国益を考えた外交が必要だ。

選挙後は、さらに二大政党制の流れが加速するだろう。イデオロギーの対立がなくなり、政治的課題の解決手法をめぐっては「グリーン」が増えていくと思う。郵政民営化や年金改革が既にそうであるように、政治家にはよりテクニカルな議論が求められる。成熟した社会の二大政党制では、イデオロギーはどちらかといえば「程度の違い」にすぎず、論点は専門的になる。より官僚的というか、政策に精通した政治家が論争するスタイルになっていくのではないか。